

## スギ実生 1 年生コンテナ苗の生産技術の開発

### 1 背景・目的

主伐再造林の推進に伴い、スギ苗木の需要量の増加が見込まれる。苗木運搬時の軽量化及び育苗コストの低減を図るため、従来の 500cc コンテナ 2 年生苗木に代わって、300cc と 150cc コンテナ 1 年生苗木の生産技術について検討する。

### 2 技術のポイント

- (1) 従来よりも早期に播種し、幼苗期のガラス室(温室等)使用によって(写真 1)、1 年で育苗できる(写真 2)。
- (2) ガラス室(温室等)の育苗で、苗が徒長かつ根元径が小さくなることを防止するため、5 月中旬頃から梅雨入りまでに屋外で育苗する。
- (3) 育苗スケジュール(表)に従えば、樹高 30cm 上、かつ根元径 4mm 上(山林用主要苗木標準規格スギ 5 号)に達する苗ができる。

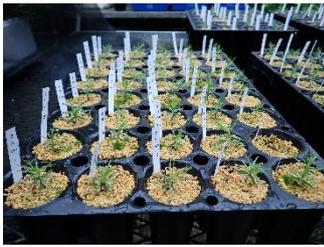


写真 1 育苗中の様子

左：5 月中旬(ガラス室)、右：11 月下旬(屋外)



写真 2 1 年生コンテナ苗 (150cc)

左：全体、右：根鉢

表 コンテナ苗育苗スケジュール

時期	12~2月	3月	4月	5月	6~11月	秋または翌春
作業	播種* (移植)		育苗	外だし	育苗	出荷
育苗場所	ガラス室(温室等)			屋外		

\*播種方法は、コンテナの育成孔に直接種子を播く直接播種法、育苗箱で毛苗を栽培し、これをコンテナに移植する毛苗移植法がある。

### 3 成果の活用と留意点

- (1) 300cc および 150cc コンテナによる 1 年生苗により、運搬時の軽量化が図られ、根が培地に張り巡らされ、根鉢が容易に崩れない状態(写真 2)になったため、植栽後の活着が期待できる。
- (2) 播種方法によって、発芽率の高い種子の選別や間引き、移植作業が必要となる。

問合せ先：森林環境部 TEL 076-272-0673

担当者：富沢裕子